組曲

山の印象

ナレーション

飯島正男

組曲「山の印象」

① 未明と朝

神秘な闇にとざされた、やすらかな未明 ——
霧の動ようが朝嵐をよび、そして去って行く。 ——
やがて小い明は、山の雄大な姿をあらべ、
鳥はうたい、 —— 雲は薄い ——
陽光こまやかな朝を迎える。

② 高原の午後

林には風、小鳥のさえずり。
なごやかな青空はどこまでも深く——
静かに——ほこらかな雲の舟に歌う。
草も木も、喜びとして
そよ風にたわむれ、踊っている。
どこからともなく
美しい歌声が聞こえてくる。

③ 峠

若者達は、ゆるやかなウネを登ってくる。
空にそびえたつ山や、湖。
太陽や雲は神秘に満ちた魅力で、
若者達の心をとらえる。
それは私達のふるさとであるから……。
歌声はこだまし、やがて彼等は
足どりも軽く、ウネを遠ざかって行く。

④ 麓を指して

木々のみどりの上に、小鳥との語らい、
あの雲のむこう、山の数々の静謐な
想い出の上に、太陽が西に沈みかける頃
若人は、山への別れを告げ、
下りてゆく馬の鈴の音を追って
足どりも軽く、枯れ草をふみながら
ふもとを指して　くだってゆく、くだってゆく。